



鎌ヶ谷市議会議員 議長
都市・市民生活常任委員会
会派 政友会

原八郎後援会事務局 政策論議をしませんか。お気軽にご相談ください。

鎌ヶ谷市道野辺本町1-11-8 ☎445-3466

HP 原八郎

検索

今月号の項目

- 一、臨時議会 五月一八日開催
新議長・副議長選出
専決処分承認案件四件 承認
- 二、六月定例議会
議案三件全て可決
陳情七件 請願一件、
陳情二件採択 他は不採択
(六月議会一般質問)
多数の議員から道路問題の質問
が集中した。都市計画道路
スクールゾーン通学路対策等
- 三、後援会会長挨拶
- 四、乳幼児の子育ての大切さ
- 五、認知症予防教室の重要度
- 六、健康診断、検診の普及
- 七、原八郎のルーツ「歩」三十七回
(ベンチャー起業に進むきっかけ)

お知らせ

この度、議長に選任され、個人の政治活動が制限を受け、公務に専念せざるを得ません。

議長原八郎、副議長長泉川洋二氏、監査委員の土屋裕彦氏の三名は、一般質問をする事が出来ません。

暫くの間、会報「すえひろ」も休刊し、市政報告会も控えさせていただきます。悪しからず御理解下さい。

一、臨時議会で議長・副議長選出

議長に原八郎、副議長に泉川洋二氏が選出されました。市民に主眼を置いて努力します。

二、六月定例議会

一般質問で道路問題、コミュニティバスの運行改善の要望等、たくさん項目が取り上げられました。

三、後援会会長挨拶

「原八郎の潜在力の発揮」

四月の選挙で大激戦の中、四期目の当選を果たすことが出来、五月の臨時議会で議長に選出されました。愈々「潜在力の発揮」となります。

これも、日頃からの後援会の皆様の御支援のお蔭と感謝しています。引き続き、温かいご支援の程お願い申し上げます。

後援会会長 中村公判

四、乳幼児、子育ての大切さ

重ねてお知らせ

誕生した赤ちゃんが健康で健やかに成長することを誰もが願っています。溢れんばかりの愛情が赤ちゃんには必要なのです。

生まれたばかりの赤ちゃんの脳細胞の重さは、平均三五〇gです。三歳までに一〇〇〇gまで発達します。二歳で一五〇〇g。八割は乳幼児期に発達します。幼児期の子育てが大切に重要です。たっぷりの愛情が必要なのです。

「眼窩前頭皮質」はこの時期しか発達しません。情報を総合判断する前頭葉に伝達する役目をするのが、眼窩前頭皮質なのです。未発達ですと正しい情報は伝わらず、間違いを起したりします。

母子手帳の副読本に子育てに、「添い寝、抱っこ、おんぶ、おっぱい」は、ほどほどにと昭和四〇年から書かれていました。ユニセフが二〇〇一年発表の子供白書で「添い寝、おんぶ、抱っこ、おっぱい」は大切ですよ、と指摘。厚生労働省は二〇〇五年に、母子手帳の副読本の内容を訂正し、乳幼児の子育てで、スキンシップを始め、愛情をたっぷり注ぐことが大事であることを推奨するようになりました。

四〇年間も間違った子育てを推奨してきたわけです。社会に適応できず、問題を起こす大人達や少年達は、乳幼児期の愛情不足がその要因かもしれません。愛情をたっぷりかけ、子育てをしましょう。しつけは四歳からで間に合います。「三つ子の魂百まで」の諺の通りです。

乳幼児期の子育ての大切さを知っていただくための啓蒙活動をこれからも続けてまいります。いつでも説明に伺いますので連絡ください。 原八郎 迄

五、認知症予防教室

「脳トレいきいきサロン」の認知症予防教室では簡単な読み・書き・計算の学習を日常生活の中に習慣づけてもらうことを目的としています。

週に一回来ていただき、三〇分程学習をし、残りの六日間は自宅で学習します。毎日、音読三枚、簡単な計算三枚を習慣的にを行います。毎日の習慣づけが目標です。

全国平均、六五歳以上の高齢者の一五％は認知症です。鎌ヶ谷市は六％で、日本で一番少ない街ではないでしょうか。国の予測では十年後は二十五％が認知症。大変な社会になります。私が十一年前に学習療法を知り、全国に先駆け、鎌ヶ谷に導入いたしました。認知症患者の少ない街を目指そうとボランティアの方々にお願ひし、開設し、満十年になりました。

鎌ヶ谷学習療法普及会会長小林保寿
連絡先 四四三・二五一七

はら はちろう

原 八郎

鎌ヶ谷市議会議員 議長
都市・市民生活常任委員会
会派 政友会

原八郎後援会事務局 政策論議をしませんか。お気軽にご相談ください。

鎌ヶ谷市道野辺本町1-11-8 ☎445-3466

HP 原八郎

検索



六、健康診断、特に女性特有の
ガンの検診のあり方への提案

健康診断を受けることは予防医療にとって大変大切なことです。検診率を上げることと努力をする必要があります。特に女性特有のがん検診率が、低いのです。

乳がん、子宮頸がんの検診率は30%に満たない状態です。欧米では70~80%です。予防・早期発見には検診は欠かせません。なぜ日本では低いのか。男性医師に見られたり、男性レントゲン技師に触れたりするのが恥ずかしいから検診を受けないとの理由が主なものです。

ならば、医師法を改正して、女性の看護士に特別研修を受けてもらい、検診が出来るようにすべきと思いますがどうでしょうか。検診率が上がれば早期発見も可能だし、病院側も点数も上がります。損をする所はありません。国に働きかけていくつもりです。この提案はいかがでしょうか。

「歩み」原八郎のルーツ
第二十七回
ベンチャー起業に進むきっかけ

大学受験に失敗し、二年浪人をしなければならぬ日のごときでした。最後の望みの可否の通知の電報がきました。望みを絶たれ、打ちひしがれている時、四つ年上の兄の叱責。昭和二十七年三月のことでした。

「二年浪人する」という事はどういふことか解っているのか！お前はバカだから、勉強もろくにしないからこんなことになるんだ。」何の反論もできず、ただ黙って下を向いているだけでした。

その頃は、年功序列で、定年が五十五歳でした。兄の叱責はまだまだ続く。二年浪人したら、

働ける年数も短くなる、年功序列の社会だから、出世も遅れる。大変なことなんだぞ。」私はその時、決心をした。「私はサラリーマンにはならない」と。兄たちと別の道を歩もう。

十一人兄弟の八男坊として生まれ、幼き頃より兄たちの圧力を感じながら育ってきた。兄たちが兄弟げんかをしたら、その場から逃げることを覚えた。負けた方が下の者にあたる。私の下の妹は末っ子である。両親は末っ子はかわいいのです。私が妹に当れば両親から怒られる。兄弟の様子をいつも注視して育ってきました。

昼間は、なるべく家にいないようにし、遠く遊びに行っていた。遊び疲れて帰ってきたら、食事をして寝てしまふ。宿題も忘れがちで、勉強はしない。当然成績は悪い。小さい時から、お前はバカだ。バカだと言われ続けてきた。兄や姉たちは皆、優等生でした。中学生になり、体が急に大きくなり、そろそろ勉強もしなければいけないなと思い始めた時、転機を迎えた。中学一年の秋でした。

理科の時間に先生が、ピーカーを持ってきて、授業の初めに、皆に考えて欲しいことがあると、教台の上にピーカーを置いた。ミニズと亀がいるとする。ミニズをピーカーの中に入れる。亀をピーカーの横に置く。亀はどうするだろうか。考えて欲しい。亀は好物のミニズが見えるわけだから食べたいと思うであろう。でも食べられない。

しばらくしてから、先生が皆ならどうする。ピーカーの上からミニズを取ればいっだろう。でも亀にはその発想はない。2次元と3次元の違いだよ。人間にも知識や経験の豊富な人と、そうでない人がいる。勉強は何の為にするのか。知識を得るためにするのか。皆は亀でいいのか。人間になりたくないのか。その為の勉強だよ。いい学校に入る為の勉強ではないよ。

私はこの時、何をすべきかを悟った。勉強

することが苦にならなくなった。でも、大学受験に失敗し、二年浪人することになった。翌年、入りたかった神戸大学に3回目の挑戦に敗れたが、幸いにも早稲田大学法学部に合格でき、入学した。

群馬県立藤岡高校の先輩が歓迎会を開いてくれた。大学の近くの蕎麦屋の二階へ行くと、十人位の上級生が温かく迎えてくれた。新入生の原ですと挨拶。床の間の前に座っている体の大きな先輩が、「お前が原か、よく入ってきたな。こっちは来い。ところで、お前は勉強は好きか?」

返事を躊躇していると「学者を目指すわけではないだろう。」ハイと返事をすると、「もう勉強はするな、思いっきり遊べ。」といわれ、意味を飲み込めないうちに、幹事が全員揃いましたので、始めます。との声がかかり、その場は終わりました。

今だに、先輩に、どのような意味だったのか聞いていませんが、自分なりの解釈をして、学生生活を送った。学者にならないのなら、生半可の勉強はしてもしょうがない。社会勉強をしろうという事だと解釈し、クラブ活動やアルバイトをし、人との交流を重視した。

起業する資金を親に頼ることはできない。年を取ってからの子であるから、親を早く安心させてくれというのが親の意向であることは、判っていた。事業を始めるには、自己資金を自分で作らなければならぬ。効率のいいアルバイトをし、三年間で三十八万円貯めた。

昭和四十年の秋、北海道旅行に行き層雲峡で、大函までの八キロを一人で歩いた。滝が八つもあり、柱状節理も沢山あり、絶景である。ここに自転車があったら便利であろうな。と思い、日本初のレンタサイクル業を四十一年、大学四年の七月から開業した。自転車三〇台買っ資金に利用した。大成功であった。

ここから企業家人生が始まった。大変面白い人生であった。